

後援会だより

札幌大学後援会広報誌

Vol.60

発行/札幌大学後援会事務局 発行日/2023年9月30日 〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1札幌大学内 TEL(011)852-9749(直) https://koenkai.sapporo-u.ac.jp



援助金贈呈式 大森学長(左)と猪狩会長(右)

最初にご報告申し上げたのは、後援会への高い加入率。97%を超える賛同を頂戴し、これが当会の活動の源となっています。令和4年度の事業等活動報告に続き、今年度の事業

●後援会総会

課外活動と
札幌大学奨学金に
一層の援助を決定!



後援会総会で挨拶する猪狩会長

計画案を説明しましたが、特筆すべき点は、支援事業および交付金について。課外活動への援助として、これまで全国大会への出場に係る遠征費を補助して参りましたが、今後は道内で開催される全国大会についても援助を行っていくことを決定いたしました。また、昨今の経済状況を鑑み、活動補助の上限を引き上げ、より厚い支援を行なっていく方針です。

●保護者懇談会(札幌会場)

学びと進路について、熱心な話し合いがなされた個別面談

総会に続き、会場を新棟のプレアホールに移して、保護者懇談会を開催。伊藤公紀副学長から、「大学生活全般について」の説明が行われました。なかでも、保護者の皆様にとって最も関心が高い、就職状況に関する解説は興味深いものとなりました。それは、近年顕著となっているインターンシップの重要性です。インターンシップとは、学生が関心のある企業や団体などの職場を訪問し、実際に仕事をしたり、現場の雰囲気などを知る、就業体験を指しています。この制度は、志望先を絞る学生にとっても、また採用する企業側にとってもメリットがあることから、今後ますます重要なポイントになると予想されています。こうした傾向に対応し、大学側としても、インターンシップの紹介や指導を、一層強化していく方針が述べられるなど、有意義な説明会となりました。

●参加した保護者の声

(全体説明について)

- ・簡素でありながらも要点が押さえられており、充実した内容でした。
- ・特に現役学生さんの話は具体的に、親にとってありがたかった。

(個別懇談について)

- ・子どもの学業の部分での現状が分かり、良かったです。
- ・本来の相談内容からかなり広げてお話ししていただき、当面の不安がなくなりました。
- ・丁寧な案内と先生のお話に安心しました。
- ・ゆっくりお話しさせていただき、ありがたかったです。

と大学との相互理解をより一層深めるため、平成18年から大学と一緒に開催しています。ここ札幌会場はじめ旭川・北見・釧路・帯広・室蘭・苫小牧・函館そして本州では岩手・青森で開催されます。せっかくの機会ですので大学又は後援会等にご要望あれば忌憚のないご意見をお願いします。

後援会では、毎年大学の声、学生の声を聴き、事業に反映させています。

事業は三本柱で構成されます。一つは後援会が学生の活動に対する支援として大学祭や文連祭をして課外活動の遠征費の補助などです。二つめが学生のために大学が主体となって実施する事業に対する支援として札幌大学奨学金制度、学外研修、資格取得・受験対策などへの援助です。

三つめが後援会活動として、この保護者懇談会や、大学・学生の活動をお知らせする後援会だよりなどがあります。特に後援会だよりは年二回、より内容を充実させ皆様にお伝えしていきます。

値上げ・値上げでご家庭を取り巻く環境も厳しい現状ですが、少子化などで大学を取り巻く環境も大変厳しいものがあります。

札幌大学は大森学長を先頭に教職員の方々・卒業生で構成している校友会そして我々後援会と非常にまとまりがあり、一緒に頑張って厳しい課題に挑戦しているところでもあります。

そして社会に役立つ人材を多く送り出し、皆様方から選ばれ続ける大学を目指しているところでもあります。

後援会もお子様がお勉強や課外活動を通じ充実した学校生活を送り、立派に社会に巣立っていきますように、皆様方に置かれましてもお子様を札幌大学に入学させて本当に良かったと思えるように、これからも大学と一緒に取り組んで参ります。

最後に皆様のご健勝・ご多幸を心からお祈り申し上げ挨拶に代えさせていただきます。

本日はご出席ありがとうございます。

この保護者懇談会は保護者の皆様

ある企業や団体などの職場を訪問し、実際に仕事をしたり、現場の雰囲気などを知る、就業体験を指しています。この制度は、志望先を絞る学生にとっても、また採用する企業側にとってもメリットがあることから、今後ますます重要なポイントになると予想されています。こうした傾向に対応し、大学側としても、インターンシップの紹介や指導を、一層強化していく方針が述べられるなど、有意義な説明会となりました。

最後に、現役学生からリアルなキャンパスライフを聞く、「札幌大トピックス」というコーナーが設けられました。「私の大学生活」と題して発表を行ったのは、地域共創学群、歴史文化専攻4年の高橋龍護さん。コロナ禍で寂しく不便な学生生活を強いられるなか、考古学を学び、野球部の活動に熱中してきた4年間の実感を報告。信念と努力を貫き、流通大手への就職内定を獲得した現在の心境と、先輩へのメッセージを語ってくれました。

その後は各講義室に分かれ、待望の個別面談を開催。保護者と教員、職員が対面により、お子様一人ひとりの学習状況や生活、さらに将来の進路について、熱心な話し合いが行われました。

保護者懇談会は、これまで開催してきた会場に加え、今年度より岩手会場を新設。実施場所を拡大し、より多くの保護者の皆様と、本学とお子様との将来について意見交換を行なっていきたいと考えています。

●後援会 猪狩哲夫会長の挨拶

選ばれ続ける大学を目指し

本日は大変お忙しい中、保護者懇談会にご出席いただきありがとうございます。また日頃より後援会の活動にご理解・ご協力を賜り重ねてお礼申し上げます。

先ほど後援会の総会を開催し、今年度の決算関係と今年度の事業計画案が承認されましたことを報告させていただきます。

この保護者懇談会は保護者の皆様

事業報告とともに事業計画を決定！ 大学との共催で保護者懇談会も盛大に。

【令和5年度 後援会総会・保護者懇談会】を開催！

新緑の季節を迎えた6月3日(土)、令和5年度「後援会総会」を開催いたしました。総会では昨年度の事業及び決算について報告・承認をいただいたうえで、今年度の事業計画及び収支予算案について審議がなされ、無事ご承認をいただきました。

また、大学との共催による「保護者懇談会」も同時開催。学びやキャンパスライフ、さらに就職情報について、教員や職員が保護者の皆様と対面でお話をする貴重な機会を設けることができました。



伊藤副学長からの説明

再評価対応について

- ・試験(18項目8月1日~8月7日)をやむを得ない理由により欠席した場合「再評価対応」を提出できます。(条件:3分の2以上の出席を要す)
- ・再評価対応を提出した学生を対象に、あらかじめ「試験を実施」をする場合があります。
- ・再評価対応は、教務課にて配布

後援会では、毎年大学の声、学生の声を聴き、事業に反映させています。

事業は三本柱で構成されます。一つは後援会が学生の活動に対する支援として大学祭や文連祭をして課外活動の遠征費の補助などです。二つめが学生のために大学が主体となって実施する事業に対する支援として札幌大学奨学金制度、学外研修、資格取得・受験対策などへの援助です。

三つめが後援会活動として、この保護者懇談会や、大学・学生の活動をお知らせする後援会だよりなどがあります。特に後援会だよりは年二回、より内容を充実させ皆様にお伝えしていきます。

この保護者懇談会は保護者の皆様

厳しくも楽しい練習で 全国に挑む、 たくまשיき女性剣士たち!

「全国出場」の常連、札幌女子剣道部の強さの秘密とは?

「ヤー」、「キエー」と、飛び交う甲高い声。次の瞬間、ドーンと床を踏み込む激しい音とともに、竹刀が「バチーン」と相手の面に振りおろされる。まるで火花の散るような迫力です。

札幌剣道部は長い歴史を刻む伝統のクラブ。今回は、快進撃を続ける女性剣士に、その強さの秘密を伺いました。

(出席者)

- 鈴木 小桜さん
スポーツ文化専攻 3年
- 中塩 涼楓さん
英語専攻 3年
- 藤田 吏亜さん
スポーツ文化専攻 2年
- 大森 果音さん
スポーツ文化専攻 1年

基本にプラスの練習メニューで、 切磋琢磨の毎日

現在9名の女子剣道部員は、先輩たちがこれまで連綿と守り築いてきた実績に



左から 藤田さん、中塩さん、尾崎師範、鈴木さん、大森さん

勝るとも劣らない好成績を挙げています。北海道女子学生剣道選手権では、昨年の新人戦、今年度の個人戦で優勝者を出し、団体でも優勝。全国大会出場の常連であり、女子剣道部の強豪としてその名を馳せています。指導する尾崎師範によると「高校時代から活躍した選手が集まってくれました。高いレベルで切磋琢磨して稽古に励んでいます」とのことです。

強さの秘密は、厳しい練習の賜物と想像されましたが、キャプテンを務める3年生の鈴木さんは「毎日の稽古が楽しい」と言います。その理由を、「お互いの個性を認め、補い合って、バランスが取れていることが、チームワークに繋がっています。先輩後輩の垣根も低く、仲が良いので、伸び伸びと練習している点も強さの秘密ではないでしょうか」と教えてくれました。同じ3年生の中塩さんは「私は怪我をして練習できない期間がありました。久しぶりに部活に戻れた時はとても嬉しくて、日々練習できることの喜びは誰よりも大きいと思います」と。その喜びが日々の感謝となり、練習を楽しくさせているようです。

「高校とは練習の内容が違うと思います。学生といっても、もう大人ですから、ある程度自主性に任せています。しかし、一方で厳しく統制、指導する部分ももちろんありますよ。基本を大切に、一人ひとりに何をアドバイスしたらいいか、指導者としてプラスすべき練習メニューや課題を常に提案しています」と、尾崎師範は補足しています。

北海道で剣道をやるなら、 札幌が一番です!

その伝統は確実に引き継がれ、厳しいながらも楽しい稽古を続けることで、大活躍しています。鈴木さん、大森さん、藤田さんは全国大会に出場。本州勢との



試合は、貴重な経験になったと言います。

「圧倒的な差を感じましたが、竹刀を交えるなかから、自分に足りない部分はもちろん、得意技として、もっと強化すべき点もわかりました」と大森さんは言います。続けて「強豪と呼ばれる選手は全国にいますが、札幌の先輩も強い人ばかり。その中で競い合うことで、もっと強くになれると信じています。強い先輩を追い抜いて、目標はインカレに出場し、優勝すること」と力強く宣言してくれました。藤田さんは「全国に出場しても、緊張することなく、自らのパフォーマンスを100パーセント発揮できるようにすること。そのために強い選手の試合を観察するなど、研究も重ねています」と、道場における練習ばかりではなく、竹刀を握っていない時の工夫や心掛けを話してくれました。

今後の目標として、鈴木さんは秋の大会で優勝することを挙げています。中塩さんも団体戦で優勝することを目標に掲げており、「師範を全国大会開催地の名古屋に連れて行ってあげたい」と笑います。そのため自らは先鋒として、みんなを引っ張っていきたくと意気込みも語ってくれました。尾崎師範は、「学生の本分はあくまで勉強であることは言うまでもありません。それだけに、剣道以外の学生時代の今しか味わえない遊びやアルバイトなど、さまざまな経験もエンジョイしてもらって、その上で「インカレに行こう」というのが合言葉になっています」と、また、「今は体育館で練習していますが、床材の問題もあり、専用の道場で練習させてあげたいですね」と、希望されていました。最後に、この日取材に応じてくれた学生の部員の皆さんは、「北海道に残って剣道をやりたいなら、札幌は絶対にお薦めです。一緒に楽しくやりましょう」と、全道の女性剣士に呼びかけ、インタビューを締め括っていただきました。

4年ぶりの対面開催は大盛況! 実行委員が振り返る、 第56回大学祭と第48回文連祭!

コロナ禍を経て、実に4年ぶりの対面開催となった大学祭と文連祭。6月17日の当日は、地域連携センター主催の「まちづくりフェスタ」、地域住民による「にしおか地区まつり」と同日開催となり、かつてないほどの大盛況となりました。その準備や運営に奔走した実行委員の大場敦智さん(英語専攻2年生)と、矢花恭一さん(経営学専攻2年生)に、開催までの奮闘ぶりをお聞きしました。

実行委員に参加した経緯は?

大場 昨年も実行委員として先輩の活躍を見ていました。苦勞されているのを目の当たりにしていたんですが、先輩から今年の委員長に指名され、「これはもうやるしかない」と思い、決意しました。

矢花 友人から誘われて今年から実行委員になり、副委員長を務めました。高校の学校祭とはスケールの違う大きなイベントですから、大学生の今しかできない貴重な体験になると思います、参加しました。

どれだけの人数で、 どれくらい前から準備を?

大場 今年は総勢12名の実行委員で臨みました。準備は開催前年の年末からです。その時点で詳細は決まっています。ですが、コロナが5類に移行したことで、4年ぶりの対面開催となり、企画づくりを進めました。

矢花 企画は例年のプログラムを踏襲する部分もありましたが、実行委員で積極的にアイデアを出し、カラオケ大会やお笑い芸人のゲストライブ、抽選会など、ゼロから立ち上げる気持ちで頑張りました。



左から 大場実行委員長と矢花副実行委員長



当日はどのような動きでしたか?

大場 正門から中央棟までのメインストリートに模擬店が並び、奥にお祭り広場を設置しました。各ブースの点検だったり、ステージイベントの進行など、とにかく大忙しでした。

予想外だったのは、ゴミ箱がすぐにいっぱいになって、何度も裏に空けにいったことです。

矢花 ステージイベントの司会進行も私たち実行委員が受け持ちました。時間が押し過ぎて焦りましたが、特に大きな問題もなく無事終えられたので、ホッとしました。

今年のテーマは 「RECORD」でしたね?

大場 コロナ禍前の大学祭がどれほど盛り上がりがあったのかわからないのですが、予想以上の来場者があり、大盛況でした。その意味で記録と記憶に残る大学祭として、RECORDというテーマはぴったりでした。実行委員の私たちにとっても、一生忘れられないイベントになりました。矢花 思い出に残っているのは抽選会で



す。本学の学生以外に、一般の方にも喜んでいただこうと考えて、景品も自分たちで買い出しに行くなど、入念に準備しました。多くの方々の笑顔が見られて、こちらも嬉しかったですね。この経験は社会人になっても生かされると思います。

「まちづくりフェスタ」や 「にしおか地区まつり」との共催は いかがでしたか?

大場 それぞれのスタッフと事前に打ち合わせ、テントを貸し出してブースを用意しました。目的別に来場された方がお互いのイベントにお立ち寄りいただき、その分活気が出ましたね。学生以外の方との交流は貴重な経験となり、大変勉強になりました。

矢花 実行委員としての経験はもちろん、いち大学生の目線でも楽しむことができましたので、人間としても成長できた気がします。

今年の大学祭を振り返って 総括してください。

大場 運営のノウハウやイベント後の達成感など、今回得られた経験を後輩に伝え、来年以降もより素晴らしい大学祭・文連祭を開催したいですね。



『キャリアデザインラボ』 「何かやりたい」情熱を形に。

本学では、地域や高校、企業との連携協働により地域社会の発展に寄与するべく、さまざまな取組を展開しています。その活動を象徴するイベントとして、本年6月には大学祭・文連祭、にしおか地区まつりと同日に「まちづくりフェスタ」が開催されました。主催は地域連携センターで、企画運営をキャリアデザインラボ(CDL)が担当しました。CDLとは、学生が主体的に考え、取り組む経験を通じて、社会人基礎力を醸成することを目的とした学生ボランティア団体です。昨年8月の発足以来、「西岡まちの灯り」でのボランティア活動をはじめ、数多くのボランティアイベントなどに取り組んできました。今回のイベントで統括リーダーを務めた山館奈央子さん(経営学専攻2年)は、「CDLではプロジェクトごとに代表者を決めており、今回については私がリーダーを務めました。そんな山館さんですが、それまで大学行事やサークル活動には参加していなかったそうです。「何かやりたい」という気持ちを抱いた



左：おかしつりリーダー 大野 茜季 経済学専攻3年生
右：まちづくりフェスタ統括リーダー 山館 奈央子 経営学専攻2年生



「おかしつりフェスタ」は、先に述べたとおり、CDLが企画運営に関わった大きなイベント。地域と学生をつなぐ地域交流の一環として開催され、CDLを中心とした26名の学生スタッフが参加しました。地域児童対象のプログラミング講座やAR技術を活用した学内探索型ゲームなどが設けられたほか、むかわ町、美幌町の参画や藻岩高校の企画など盛沢山の内容となりました。

なかでも目玉企画となったのが、CDL企画・運営のおかしつりコーナーです。山館さんは、「どんなプログラムなら子どもたちに喜んでもらえるか、メンバーみんなでアイデアを出し合

ました。子どもたちに喜んでほしい、こちらも嬉しかったですね」と笑顔。おかしつりリーダーの大野さんも「最初は子どもたちとの接し方に戸惑いましたが、触れ合ううちに慣れてきて、自分も成長できたような気がします」と言います。

二人は、「当日は延べ1,200人を超える皆様に来場いただき、用意したお菓子が足りなくなると、慌てて買い足しに行くなど嬉しい誤算もありましたが、一つのイベントを企画し、運営する難しさや楽しさを学びました。また、高校生や企業、地域の方など、大学生以外の方とも接し、コミュニケーション能力も養うことができました。この経験は将来、必ず役に立つと感じています」と充実感でいっぱいの子。



夕張市を舞台にした「高大地連携プロジェクト」が2023年度スタートしました。この取組は、むかわ町で2022年度に始まった高大地連携に続く第二弾となります。

「北海道夕張高等学校・夕張市との連携プロジェクト」がスタート！

生が独自課題を設定し、来年5月に夕張市長などに提言する」とも計画されています。秋学期からは網島洋一教授による教員発案型授業B「夕張学」を開講し、空知管内の炭鉱の歴史を知る巡見などを計画しながら、人口減少と高齢化が進む「日本の縮図」とされる旧産炭地・夕張市を舞台に明日の北海道と日本のありようを考え、道内の地域社会の再生に向けた具体的な提言をまとめます。



夕張市拠点複合施設「リすた」を見学

【就職課より】就職活動支援の現状と対策について

就職支援で現在、最も力を入れているポイントが、「企業と学生のマッチング」にほかなりません。その具体策として推進しているのが企業説明会です。これまで就職課では、多くの企業にご参加いただき、「合同企業説明会」を頻繁に行ってまいりました。一方、近年は「単独企業説明会」の開催にも積極的に取り組んでいます。

これは、企業と学生が1対1で接することで、フランクな話し合いが可能となり、相互理解を深めやすく、内定獲得にも繋がりやすいというメリットを考慮したものです。今後はより多くの開催日程を設けるため、企業訪問の数を増やしていく方針です。しかしながら、この「単独企業説明会」については、まだまだ学生の参加人数が少なく、告知面における課題も残されていることは事実です。有効な情報提供や適切な指導を行うため、職員同士、また職員と教

員との間で学生一人ひとりの就活状況を共有できるツールを活用するなど、さまざまなアプローチを試みています。

次に、コロナ禍によって盛んになったオンライン面接ですが、近年は企業側、学生側双方の意向により、再び対面による面接が重要視されるようになりました。最終面接では、やはり会社の代表と直接面談するケースが多いため、コロナ禍以前のように、対面による面接指導を引き続き強化・継続していく考えです。

そして近年、最も顕著な傾向として注目されているのが、インターンシップの増加です。インターンシップとは、学生が実際に企業や団体に赴き、就業体験を通じて社会的視野の拡大、将来設計の指針とするものであり、企業選択の大きなポイントとなります。

現在、OB・OGの協力も得ながら、企業に職員が直接赴いて情報交換を行う取組を強化しており、この企業訪問を通じて、インターンシップの受入れ先の拡充を進めています。

企業説明会への出席、面接指導の強化、インターンシップの利用促進と、現在、推進している大きなポイントについて解説してまいりました。その前提条件となるのが、こうした場に学生が参加するところにあります。そのため、学生一人ひとりに電話掛けを行うなど、地道で丁寧なサポートを行なっています。さらに、ほとんどの学生が参加する履修のガイダンス後に就職関係のイベントを設けるなど、工夫も重ねています。そこで保護者の皆様には、ご子女に対し、積極的にキャリアサポートセンターの利用を促していただきたくお願い申し上げます。本学ではゼミを中心とした教員と職員との連携の強化、さらに部活動の指導員やOB・OGのご協力も賜り、さまざまな支援制度とともに、就活を手厚くサポートする体制を整えています。

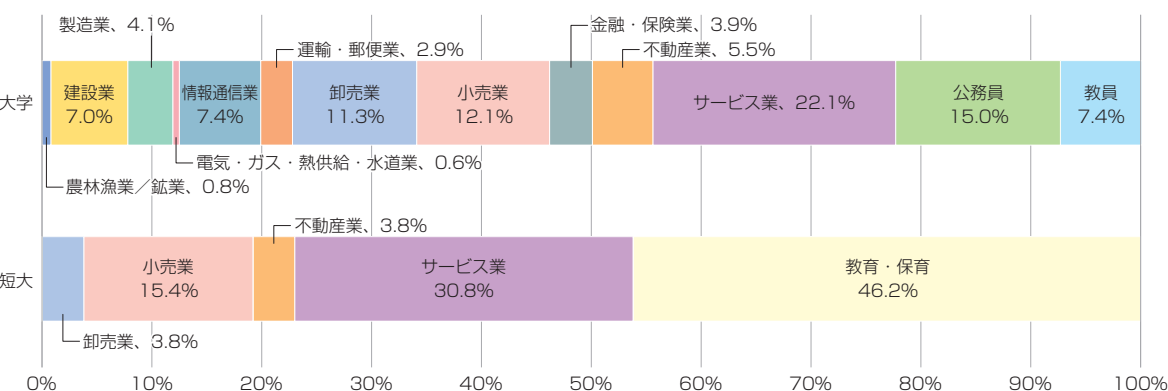
令和4年度就職決定状況

(令和5年5月15日現在)

	卒業者	就職希望者	就職者	就職決定率	進学者	非就職者	不明者
大学	609	521	488	93.7%	13	121	0
短大	キャリアデザイン学科	17	12	91.7%	3	6	0
	こども学科	17	15	100.0%	1	2	0

令和4年度業種別就職先

(令和5年5月15日現在)



令和5年3月卒業生の主な就職先

〈大学〉
一条工務店/北海道セキスイハイム/つうけん/マツダ/北海道コカ・コーラボトリング/北海道保証牛乳/釧路ガス/ソフトバンク/KDDIエボルバ/NTT東日本-北海道/ANA成田エアポートサービス/日本通運/北海道旅客鉄道/シャープマーケティングジャパン/ニッポンスリッパ/モロオ/北海道トンボ/JR北海道フレッシュキヨスク/イオン北海道/サッポロドラッグストア/北洋銀行/旭川信用金庫/苫小牧信用金庫/東急コミュニティー/常口アトム/明和地所/羽田旅客サービス/東武トップツアーズ/JA旭川/国家一般職/北海道/札幌市/北海道警察/公立学校教員

〈短大〉
キムラ/ダイハツ北海道販売/中道リース/羽田エアポートエンタープライズ/溪仁会/西岡中央学園/つくし学園

令和4年度事業活動及び令和5年度事業計画

令和4年度事業活動

(1) 会費納入状況

- ①第1種会員：3,044人、加入率 97.31%
【大学：3,008人、加入率 97.31% 大学院：2人、加入率 66.67% 短大：34人、加入率 100.00%】
- ②第2種会員：28人 (36口)
- ③第3種会員：なし

(2) 補助事業

①課外活動への補助 補助金交付団体及び補助金額は次の一覧のとおり。
(令和5年3月末現在)

交付団体名	大会名	支出金額
空手道部	第66回全日本大学空手道選手権大会	24,000円
剣道部(女子)	第56回全日本女子学生剣道選手権大会・第16回全日本女子学生剣道東西対抗試合	45,000円
ゴルフ部	第59回全国大学ゴルフ対抗戦	9,000円
サッカー部	2022年度第46回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	240,000円
	アットホームカップ2020	180,000円
	第20回インディペンデンスリーグ全日本大学サッカーフェスティバル	330,000円
	第6回全日本大学サッカー新人戦	138,000円
女子サッカー部	第44回JFA皇后杯全日本女子サッカー選手権大会	276,000円
	第31回全日本大学女子サッカー選手権大会	105,000円
	大学女子サッカー地域対抗戦2023	18,000円
柔道部	福井県国民体育大会予選(団体)	36,000円
	2022年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	180,000円
	全日本学生柔道体重別選手権大会	30,000円
	第77回国民体育大会柔道競技	180,000円
	全日本学生柔道体重別団体優勝大会	12,000円
	2022年度講道館杯柔道体重別選手権大会	36,000円
	2022年度海外研修団体選手派遣・フランス試合	645,000円
スケート部	第16回東日本学生フィギュアスケート選手権大会 兼 第95回日本学生氷上競技選手権大会選考競技会	9,000円
	第95回日本学生氷上競技選手権大会	162,000円
卓球部	第91回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)	192,000円
	第88回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)	210,000円
	第18回全日本学生選抜卓球選手権大会	126,000円
	天皇杯・皇后杯2023年全日本卓球選手権大会(一般・ジュニアの部)	48,000円
	第62回大阪国際招待卓球選手権大会	84,000円
	第75回東京卓球選手権大会	63,000円
	清瀬杯第54回全日本大学選抜準硬式野球大会	15,000円
準硬式野球部	第40回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会	144,000円
	ミキプルーンスーパーカレッジバレー2022	156,000円
男子バレーボール部	第69回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会	27,000円
女子バレーボール部	第34回全日本学生子アリーティング選手権大会	27,000円
チアリーディング部	第10回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会	168,000円
男女バドミントン部	第73回全日本学生バドミントン選手権大会(団体)	42,000円
	第73回全日本学生バドミントン選手権大会(団体&個人)	300,000円
ハンドボール部	令和4年度東日本学生ハンドボール選手権大会	216,000円
	高松宮記念杯第65回(男子)令和4年度全日本学生ハンドボール選手権大会	27,000円
ラグビー部	第23回東日本大学セブンス大会	180,000円
	第73回全国地区対抗大学ラグビー大会	18,000円
剣道部	第70回全日本学生剣道選手権大会・第69回全日本学生剣道東西対抗試合	252,000円
女子バスケットボール部	第74回全日本大学バスケットボール選手権大会	216,000円
男子バスケットボール部	第74回全日本大学バスケットボール選手権大会	75,000円
陸上競技部	第91回日本学生陸上競技対校選手権大会	84,000円
	第13回エコパトラックゲームズ	21,000円
X-sports部	第41回JSBA全日本スノーボード選手権大会	

課外活動への補助金合計 5,580,000円

- ② 札幌大学奨学金への資金援助5,000,000円
- ③ 札幌大学学外研修補助金2,000,000円
- ④ 札幌大学資格取得等奨励補助金1,000,000円
- ⑤ ラーニングcommonsへの支援5,000,000円
- ⑥ 学生ボランティア対応200,000円
- ⑦ 入学記念品及び卒業記念品補助金0円
- ⑧ 札幌大学大学祭・文連祭への補助金200,000円
- ⑨ 学生用図書費の援助500,000円
- ⑩ 図書カード(大学院生への補助)10,000円
- ⑪ 札幌大学保護者懇談会に係る旅費への補助金708,786円
- ⑫ ほっかいどう若者応援プロジェクト*への補助金0円

*札幌大学生協同組合が実施した札幌大学の在学学生を対象とした食糧支援活動。
補助費支出合計 20,198,786円

(3) 令和4年度 保護者懇談会実施状況

開催地	会場	開催日
札幌	①札幌大学	6月4日(土)
札幌	②札幌大学	9月18日(日)
北見	③北見経済センター	9月9日(金)
旭川	④旭川勤労者福祉会館	9月8日(木)
釧路	⑤ANAクラウンプラザホテル釧路	9月10日(土)
帯広	⑥十勝ガーデンズホテル	9月11日(日)
青森	⑦ホテルJALシティ青森	9月3日(土)
秋田	⑧アキタ・スクエア	9月2日(金)
室蘭	⑨室蘭市生涯学習センター「きらん」	9月4日(日)
函館	⑩函館国際ホテル	9月4日(日)
苫小牧	⑪グランドホテルニュー王子	9月3日(土)

保護者懇談会では就職をはじめ、さまざまなご質問やご相談にもお応えしております。地方の方は参加しやすい主要都市での開催に是非ともご参加下さい。

(4) 【広報活動について】 「後援会だより」を令和4年9月30日と令和5年3月31日付けの年2回発行

(5) 札幌大学後援会総会 (第1回) 日時:令和4年6月4日(土) 場所:札幌大学 8302教室(SUcole 3階)

(6) 札幌大学後援会役員会 (第1回) 日時:令和4年6月4日(土) 場所:札幌大学 8301教室(SUcole 3階)

編集後記

皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。
感染が拡大した新型コロナウイルスは、令和5年5月8日から「5類感染症」となり、季節性インフルエンザと同様の取扱いとなりました。今まで厳しい制約が課されていた授業や課外活動、フィールドワーク、海外留学など、学生が主体的に取組む様々なプログラムなども解禁され、大学から地域へ活動の場を拡げ、教員と学生が一体となり、様々なプログラム活動を行っています。この度の「後援会だより 60号」においては、アフターコロナにおける取組みについて、会員の皆さまにお伝えする構成を行いました。
剣道部の活躍ぶりや大学祭・文連祭のほか、学生が主体的に取組むボランティア活動(キャリアデザインラボ)の取組み、また、就職活動支援や学生の就活状況などをお伝えしたいと思います。今後も後援会の視点で大学の情報を発信する際の参考とさせていただきますので、ぜひ皆さまの忌憚のないご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。
常日ごろ後援会の手足となり、活動が円滑に進むようにお力を注いで下さっています事務局担当職員の皆様へこの場をお借りしましてお礼を申し上げます。
60号発行にあたり、取材にご協力をいただきました皆さまに感謝を申し上げます。
(広報委員会 伊藤)

令和4年度札幌大学後援会決算書

令和4年度収支計算書(自令和4年4月1日 至令和5年3月31日) 単位:円

科目	予算	決算額	増・減
収入の部			
前年度繰越金	78,734,471	78,734,471	0
第一種会員会費	31,280,000	30,440,000	△840,000
第二種会員会費	120,000	108,000	△12,000
第三種会員会費	0	0	0
利息	1,000	862	△138
基金取崩収入	0	0	0
合計	110,135,471	109,283,333	△852,138
支出の部			
基金充当金	0	0	0
補助費	19,715,000	20,198,786	483,786
消耗品費	60,000	28,847	△31,153
旅費交通費	1,600,000	273,100	△1,326,900
印刷費	1,300,000	885,060	△414,940
通信費	1,200,000	1,116,407	△83,593
支払手数料	20,000	7,585	△12,415
会議渉外費	3,520,000	591,910	△2,928,090
委託管理費	510,000	501,600	△8,400
予備費	80,000	20,000	△60,000
寄付金	0	0	0
備品費	0	0	0
小計	28,005,000	23,623,295	△4,381,705
当年度収支差額(次年度繰越金)	82,130,471	85,660,038	
合計	110,135,471	109,283,333	△852,138

令和4年度資産(現預金)・基金内訳表(令和5年3月31日現在) 単位:円

勘定科目	前年度繰越金	3月末	増減
《資産の部》			
現金(事務室保管)	202,823	17,195	△185,628
普通預金(北海道銀行西岡)	61,937,430	68,992,700	7,055,270
普通預金(北洋銀行豊平)	16,594,040	16,650,143	56,103
基金(北海道銀行西岡)	21,000,178	21,000,000	△178
基金(北洋銀行澄川)	0	0	0
資産合計	99,734,471	106,660,038	6,925,567
《基金の部》			
基金(北海道銀行西岡)	21,000,000	21,000,000	0
基金(北洋銀行澄川)	0	0	0
収支差額(次年度繰越金)	78,734,471	85,660,038	6,925,567
基金合計	99,734,471	106,660,038	6,925,567

令和5年度事業計画

在学生を支援の主たる対象とし、各種支援事業を実施します。

1. 後援会総会の開催

2. 支援事業

(1) 学生の活動に対する支援経費

- ①学生の課外活動への援助(全国大会出場遠征費の一部補助、文化系サークル活動費補助)、
- ②表彰(国際大会、全国大会等で特に優秀な成績を収めた団体・個人等への表彰)、
- ③卒業記念祝賀会に対する援助、
- ④大学院生に対する援助(図書カードの支援)、
- ⑤大学祭、文連祭に対する援助、
- ⑥入学記念品及び卒業記念品に対する援助

(2) 学生のために大学が主体となって実施する事業に対する支援(目録事業)

- ①学生ボランティア対応費への補助、
- ②学外研修への資金援助、
- ③資格取得・受験対策への資金援助、
- ④札幌大学奨学金への資金援助(生活支援奨学金・家計急変等支援対策への支援)、
- ⑤ラーニングcommonsへの支援、
- ⑥学生用図書費の援助(学生が求める図書資料購入の援助)

3. 保護者懇談会の開催等、後援会活動経費

4. 広報活動(「後援会だより」の発行)

令和5年度収支予算

収入の部 単位:円

科目	令和4年度決算	令和5年度予算(案)	増減額(③-④比)	摘要
前年度繰越金	78,734,471	85,660,038	6,925,567	
第1種会員会費	30,440,000	30,330,000	△110,000	10,000円×3,033人=30,330,000(大学3,027人、大学院6人)
第2種会員会費	108,000	120,000	12,000	3,000円×40口
第3種会員会費	0	0	0	
受取利息	862	1,000	138	
基金取崩収入	0	0	0	
合計	109,283,333	116,111,038	6,827,705	

支出の部 単位:円

科目	令和4年度決算	令和5年度予算額	増減額(決算額比)	摘要
基金充当金	0	0	0	
補助費	20,198,786	22,725,000	2,526,214	学生の活動に対する支援事業(9,025,000円) 学生のために大学が主体となって行う事業に対する支援(13,700,000円)
消耗品費	28,847	60,000	31,153	事務用消耗品(ファイル等) コピー用紙
旅費交通費	273,100	600,000	326,900	役員会、保護者懇談会(地方)
印刷費	885,060	1,300,000	414,940	封筒作成 会報作成(後援会だより) 印字 その他印刷
通信費	1,116,407	1,200,000	83,593	後援会だより発送作業・発送費、会費納入案内役員会、総会案内・保護者懇談会の案内他
支払手数料	7,585	20,000	12,415	会費納入振込手数料・業者への振込手数料
会議渉外費	591,910	2,000,000	1,408,090	役員会会議費、総会・札幌会場保護者懇談会参加者昼食費、地方会場費 祝儀等
委託管理費	501,600	510,000	8,400	後援会サイトレンタルサーバ年間使用料
備品購入費	0	0	0	
予備費	20,000	80,000	60,000	
小計	23,623,295	28,495,000	4,871,705	
次年度繰越金	85,660,038	87,616,038		
合計	109,283,333	116,111,038		